

たかあき
かつまた 孝明 です！



昭和51年4月7日生まれ（37歳）
出身 沼津市
住所 沼津市花園町
家族 父親（沼津市出身）
母親（伊豆市出身：修善寺）
妻・長男・長女・次男

経 歴

〔学歴〕

しょうえい幼稚園
沼津市立門池小・門池中 卒業
静岡県立沼津東高校 卒業
学習院大学経済学部 卒業
慶應義塾大学大学院経営管理研究科 卒業
（経営学修士：MBA取得）

〔職歴〕

平成12年4月 スルガ銀行株式会社入社
財団法人企業経営研究所 研究員
（地域経済産業分析）
経営企画部 人事担当マネージャー
平成22年12月 スルガ銀行株式会社退職
平成23年1月～ 自民党衆議院静岡県第6選挙区支部 支部長
平成24年12月～ 衆議院議員（一期目）
・経済産業委員 ・内閣委員 ・国会対策委員
・自民党青年局次長

— お知らせ —



<http://www.facebook.com>

facebook はじめました！！友達大募集！

いま、自民党が熱い！自民党員を大募集中！！

自民党に入党して、党員として自民党そしてかつまた孝明を支えてください！

入党資格

- ・ わが党の綱領、主義、政策等に賛同される方
- ・ 満18歳以上で日本国籍を有する方
- ・ 他の政党の党籍を持たない方

党 費：一般党員 年額4,000円、家族党員 年額2,000円

申し込み方法

- ・ 自民党衆議院静岡県第6選挙区支部までご連絡ください。電話、eメール、直接お越し
いただいても結構です。



通
信

— 第 2 3 号 —

自民党衆議院静岡県第6選挙区支部

〒410-0065 沼津市花園町 11-5

電話：055 (922) 5526 FAX：055 (922) 5527

ブログ：<http://ameblo.jp/t-katsumata>

公式サイト：<http://www.t-katsumata.com>

eメール：jimin@t-katsumata.com

静岡6区【沼津・伊東・熱海・下田・伊豆・伊豆の
国（旧韭山・大仁）・賀茂郡・駿東郡（長泉・清水）】

ボランティア大募集（6区支部まで連絡下さい）

まるかつ通信の企画・配布・街頭演説サポート・ポ
スター貼りなどなど、楽しい仲間と共に！

衆議院議員（静岡県第6選挙区支部支部長）

たかあき

かつまた孝明氏 のデフレ脱却！

～期待から実感へ変えるために～



「伊豆半島街頭キャラバンにて」

「3本の矢」を矢継ぎ早に実行する

安倍新政権の誕生から約4か月が経過し、最優先課題であった経済再生、デフレ脱却を克服すべき様々な施策が実行されつつあり、その期待からか内閣支持率は高水準を維持しています。懸念されていた円高も大幅に是正され、日経平均株価もリーマンショック以前の水準に戻りつつあり、実に4年7か月ぶりに13,000円台に回復しました。

各メディアでの世論調査においても、国民の皆さまのアベノミクスに対する期待は大きいものになっています。日本経済の成長へ期待する人は55%（4月朝日新聞世論調査）にも上っています。しかしながら、景気が良くなっていると実感している人は約17%（4月NNN世論調査）にすぎません。

期待から実感へ変えていくためには、「3本の矢」（金融緩和、財政出動、成長戦略）の政策を矢継ぎ早に実行していくことが必要です。

・金融緩和

大胆な金融緩和は、株式市場にも大きな影響を及ぼし、個人の消費心理を促し、企業の設備投資をしやすくするための政策です。しかしながら、金融緩和政策だけではデフレ脱却には至らなかったことは、過去の例でも明らかです。日銀当座預金残高は過去最高額の58兆円（3月末）を超えている状況ですし、個人の金融資産は1,400兆円とも言われています。要は、お金が市場にダブっている状態で、お金の流れが金融機関で目詰まりしてしまっている状態なのです。

人は欲しいと思うモノがあるからこそお金を出してそれを購入するわけで、今の日本経済においても同じで、欲しいものがないからお金を使わない、故にお金が循環しないということが言えるのです。

そのため、政府がその「欲しいもの」を創り出す必要があります。いわゆる需要を創り出すことです。これが二本目、三本目の矢である、財政出動と成長戦略になります。

・ 財政出動

機動的な財政出動を金融緩和と同時に行うことによって、需要を創り出します。企業の設備投資を促し、個人消費を高めることが必要です。自民党は、人の命や生活を守るために必要な公共事業はしっかりと行っていきます。防災や減災の観点に立った国土強靱化事業、また、道路・橋梁・トンネルなど維持、修繕、管理していくことで社会資本を子や孫の世代に財産として遺していくことが重要です。

そして、この財政出動は、半永久的に行うのではなく、2年3年の短いスパンの中で思い切った形で行い、民間需要を刺激していくことが大切です。

・ 成長戦略

また、公共事業だけでなく成長分野への積極的な投資をしていくことが重要です。需要や雇用を創り出していくためには、医療・介護・環境などの分野へ投資を行い成長産業にしていくことが必要となります。

例えば、IPS 細胞の研究においても、すばらしい研究技術を持っていても、実用化していくことはなかなか大変です。介護ロボットでも、その技術力が産業として成長していくまでには至っていないのが現状です。

健康長寿社会を目指すというビジョンの中で、日本の誇る技術力を存分に活かして成長産業を創り出していくことが求められています。

こうした、「三本の矢」を矢継ぎ早に実行していくことが、国民の皆さまの経済再生に対する期待を実感に変えていくことであると考えています。